

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月21日

協議会名: 半田市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんく「亀崎・有脇線」 日本福祉大学～亀崎駅～日本福祉大学	・コロナ禍でも安心・安全にバス利用できるよう、対象車両内の抗菌・抗ウイルスコーティングを継続実施した。	A	計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「亀崎・有脇線」の維持・確保を実施。	B 令和4年9月末時点の平均利用者数は31人/日であり、目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した令和4年度目標値28人を達成することができた。 日々の普及・啓発に加え、R3年10月の集客イベントを活用した利用促進キャンペーンや同年11月の安全性向上のための車内の抗菌・抗ウイルス対策等の実施により、コロナ禍での利用者の大幅な減少を食い止めることができたものとする。 暮らしに密着した、住民にとってなくてはならない公共交通の基盤維持を図ることができた。	住民にとってなくてはならない公共交通の基盤となっていることから、今後も事業の維持継続が必要であり、以下のとおり、コロナ禍の外出自粛や生活様式の変化を踏まえた外出(利用)促進策を実施していく。 ・地域の会合、大型商業施設でのバス展示・乗車体験イベント等を活用した普及・啓発、車内の抗菌・抗ウイルス対策を継続実施する。 ・運行事業者と連携し、4か月間市内の路線バス8路線の無料乗車キャンペーンを実施することで、子どもから高齢者まで幅広い世代のバス利用の需要開拓を図る。 ・以下2路線と比較すると利用者が少ないため、路線改善等を含む将来的な見直し検討を進める。
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんく「半田中央線」 パワードーム半田～知多半田駅～新美南吉記念館	・地域との会合、大型商業施設でのバス展示・乗車体験イベント等を活用して普及・啓発を図った。 ・子どもと保護者世代のバス利用の早期習慣化と将来的な利用増を目的に、若い世代を対象とした運賃改定(小学生無料化)を実施した。	A	計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「半田・中央線」の維持・確保を実施。	B 令和4年9月末時点の平均利用者数は115人/日であり、目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した令和4年度目標値92人を達成することができた。 日々の普及・啓発に加え、R3年10月の集客イベントを活用した利用促進キャンペーンや同年11月の安全性向上のための車内の抗菌・抗ウイルス対策等の実施により、コロナ禍での利用者の大幅な減少を食い止めることができたものとする。 暮らしに密着した、住民にとってなくてはならない公共交通の基盤維持を図ることができた。	住民にとってなくてはならない公共交通の基盤となっていることから、今後も事業の維持継続が必要であり、以下のとおり、コロナ禍の外出自粛や生活様式の変化を踏まえた外出(利用)促進策を実施していく。 ・地域の会合、大型商業施設でのバス展示・乗車体験イベント等を活用した普及・啓発、車内の抗菌・抗ウイルス対策を継続実施する。 ・運行事業者と連携し、4か月間市内の路線バス8路線の無料乗車キャンペーンを実施することで、子どもから高齢者まで幅広い世代のバス利用の需要開拓を図る。
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんく「青山・成岩線」 君ヶ橋住宅～青山駅～君ヶ橋住宅		A	計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「青山・成岩線」の維持・確保を実施。	B 令和4年9月末時点の平均利用者数は95人/日であり、目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した令和4年度目標値82人を達成することができた。 日々の普及・啓発に加え、R3年10月の集客イベントを活用した利用促進キャンペーンや同年11月の安全性向上のための車内の抗菌・抗ウイルス対策等の実施により、コロナ禍での利用者の大幅な減少を食い止めることができたものとする。 暮らしに密着した、住民にとってなくてはならない公共交通の基盤維持を図ることができた。	住民にとってなくてはならない公共交通の基盤となっていることから、今後も事業の維持継続が必要であり、以下のとおり、コロナ禍の外出自粛や生活様式の変化を踏まえた外出(利用)促進策を実施していく。 ・地域の会合、大型商業施設でのバス展示・乗車体験イベント等を活用した普及・啓発、車内の抗菌・抗ウイルス対策を継続実施する。 ・運行事業者と連携し、4か月間市内の路線バス8路線の無料乗車キャンペーンを実施することで、子どもから高齢者まで幅広い世代のバス利用の需要開拓を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年12月21日

協議会名:	半田市地域公共交通会議
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>・半田市では、「おでかけ環境が充実した 住み続けたいまち 半田」を交通将来像として掲げ、以下の基本方針に沿って目標の実現を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none">①半田市の一体性の強化及び観光施設・イベントを回遊できる公共交通ネットワークの再編②半田メインストリートにおける公共交通サービスの充実③各生活圏のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの確保④関係者が連携・協働し公共交通を支え育む仕組みの構築

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

半田市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和3年10月～令和4年9月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
市内の路線バス利用者数1,100人/日（H28年度） →2,700人/日（R4年度） ※目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した目標値 919人/日（R4年度）	・交通空白地域の解消 ・バス環境の向上 ・運賃改定（小学生無料化）の実施 ・地元バス会と協働した普及啓発	運行事業者及び市が有する乗降データ及び実績値を用いて計測	【目標達成】 960人/日（R4年度実績） 既存路線（運行事業者の自主路線・フィーダー路線）における通勤・通学者の復調と、R2年度以降導入路線における、地元バス会との地道な広報活動等利用促進の強化による利用者の定着が、コロナ禍における利用者の増加につながったものと分析している。	・運行事業者と連携し、4か月間、市内の路線バス全線の無料乗車キャンペーンを実施することで、子どもから高齢者まで幅広い世代のバス利用の需要開拓を図る。 ・地元バス会と協働し、バス利用者の実際のおでかけ事例を紹介する広報を実施するなど、公共交通をより身近に感じ（継続）利用につながるようなPRを実施する。 ・残存する交通空白地域への取組として、引き続き、住民ニーズに沿った公共交通のあり方について協議・検討を進めていく。	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

